# 地域生活支援にかかわって　てんしゃば

今年度、第二陽光園よりグループホームへと異動となり、半年がたちましたが、その中で私自身が感じたことを述べたいと思います。支援員は、ホームで生活している利用者さんの、生活全般を支援しています。利用者さんを各々が在籍している事業所に送り出した後、何か連絡事が生じた場合には、そのやりとりを行うことがあります。また通院等、医療機関とも連絡をとり合います。その他にも、利用者さんが日常的に利用するお店やバス等の公共交通機関の人達とも、利用者さんを通してお話する機会も多くあります。休日には外出の計画を立てて、ドライブや買い物等、利用者さんのニーズに対応し、自分で出かけられる人は、自分の行きたいところに外出し、買い物などをおこなっています。また、ヘルパーさんと外出することもあり、より個別ニーズにかなった、外出、選択が広がっています。支援員も利用者さんの外出先の店員さんやヘルパーさんなどとも情報交換を行い、利用者さんが外出先で困ったりすることがないようにしています。ホームという小規模単位での運営というメリットを生かし、よりきめ細やかな対応を支援員も常に心掛けています。こういったように、利用者さんの生活の広がりとともに、利用者さん自身の人と人との関わり、そして支援の幅はどんどん広がっていきます。多くの人達の関わりの中で生活していくということ。これは私達、社会の中で生活を送る者として、ごく当たり前のことなのですが、地域生活支援に携わっていく中で、改めて考えさせられる機会を得たように思います。また今後は利用者さんが地域生活を送っていく上で、より便利になるように利用者さんを中心としたネットワーク作りも必要になってきていると強く感じています。地域の中での何げない日常を、ごく普通に支えていく。そんな支援を目指し精進していきたいと思います。今後とも皆様のご指導頂けるよう、よろしくお願いします。

※写真は思い出のスナップです。

主任　生活支援員
勤続18年　前山　秀邦